

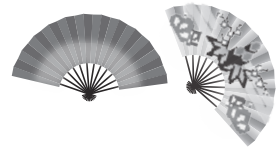


曾根崎交通安全協会
曾根崎自家用自動車部会
〒530-0027
大阪市北区堂山町1-5
三共梅田ビル6階611号室
TEL (06) 6315 - 8505
FAX (06) 6315 - 8506
制作・印刷 (株)タップハウス



謹 賀 新 年

本年もよろしくお願い申し上げます
平成30年 元旦



曾根崎交通安全協会
会長 中野由彦
役員一同

曾根崎警察署
署長 野田哲治
署員一同

年始のごあいさつ

曾根崎交通安全協会
会長 中野由彦

あけましておめでとうございます。

元旦から穏やかな天候に恵まれ、皆様方には、それぞれのかたちで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、24年振りに皇室会議が開かれ、平成31年4月30日に天皇陛下が退位され、同年5月1日に皇太子さまが天皇に即位されることが決まりました。

皇太子さまが即位された日から、新元号に変わり新しい時代を迎えます。

車社会でも向こう2～3年後には「人手不足」の解消にも繋がるとも言われている自動運転車が公道を走る事が現実味を帯び、報道によりますと、すでに東京都内で人が運転しないAI(人工知能)自動車が公道での走行実験に成功し、東京五輪には無人タクシーの運行を目指しているそうです。

人口知能が、あらゆる分野で社会変革をもたらし、道路交通社会も大きく変貌し、交通安全対策も変革に呼応しなければならない時代が到来した、と痛感しているところです。

完全な人口知能が開発され、自動運転車が走り回る時代になると、交通事故情勢や事故形態も大きく変わり、その抑止対策も柔軟に対応する必要があると思います。

このように、道路交通情勢が急速に変化するなか、昨年大阪府下における交通事故情勢ですが、大阪府警察本部交通部長 菅野 輝彦様の「年頭のごあいさつ」の通り、発生件数、死者数及び負傷者数の全てが減少しましたが、二輪車事故・高齢者事故は憂慮できない情勢にあったそうです。

曾根崎警察署管内の交通事故件数と負傷者数は、対前年比で約1割弱減少し、交通安全諸活動を推進している当協会としては、今後の励みに繋がると思います。

ただそんな中、高齢者が自転車に乗って交差点を横断中、高齢者が運転する普通乗用自動車と衝突し、自転車を運転していた方がお亡くなりになる死亡事故が発生しました。誠に残念な思いであります。

このような背景をふまえ、当協会としまして、大阪府警察本部及び曾根崎警察署の交通事故抑止対策の方針に沿った事業を積極的に推進し、府民・市民の方々が安心して生活できる道路交通環境作りに微力ながら活動してまいります。

結びに、本年も皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



年頭あいさつ

曾根崎警察署

署長 野田 哲治

あけましておめでとうございます。

皆様方には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、交通行政はもとより、警察行政の各般にわたり、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年のお大阪府下における交通事故は、発生件数、死者数、負傷者数の全てにおいて減少しました。

一方、曾根崎警察署管内におきましては、件数・負傷者数は減少したものの、10月に国道423号の鶴野町交差点におきまして、普通乗用自動車と自転車とが衝突し、自転車運転中の高齢者がお亡くなりになる交通死亡事故が発生しました。

昨年、曾根崎警察署の取組みといたしましては、交通事故が多発する時間帯に、幹線道路や交差点を中心に発生実態に即した交通指導取締りや赤色蛍光灯を点灯させてパトカーの走行や駐留警戒を行うとともに、貴会を始めとする関係機関・団体にご協力をいただき、女性アナウンサーを一日警察署長に迎え「飲酒運転撲滅キャンペーン」を開催する等、交通安全教育・広報啓発活動に積極的に取り組んで参りました。

また、昨年11月に行われました交通安全教育技能コンクール府下大会におきましては、当署交通課員と管内の大学生とペアで出場し「高齢者の交通事故防止を目的とした交通安全教育」というテーマで取り組み、府下第1位という成績を収め、二連覇を達成することができました。これもひとえに、貴会のご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

本年も悲惨な交通事故ゼロを目指し、署員一同、交通警察活動に全力で取り組んで参りますので、引き続き、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、曾根崎交通安全協会・自家用自動車部会等の益々の御発展と会員の皆様のご健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭挨拶

大阪府警察本部交通部

交通部長 菅 野 輝 彦

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては穏やかな初春を迎えられたことと存じます。

また、平素は交通警察行政はもとより、警察行政の各般にわたり格別のご高配を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年のお大阪府下における交通事故につきましては、発生件数、死者数及び負傷者数の全てが減少いたしました。

これもひとえに、貴協会をはじめ、関係機関・団体の皆様方によるご尽力の賜物であると深く感謝いたしております。

しかしながら、昨年の交通死亡事故の発生状況を振り返りますと、4月以降、通勤時間帯における二輪車乗車中の死亡事故が多発し、7月末には全死者数の約4割を占めるというこれまで直面したことのない極めて厳しい状況となりました。

こうした二輪車事故の多発傾向に歯止めを掛けるため、8月に二輪車関係団体・企業との連絡会議を開催し、警察とのネットワークを構築した上で、販売店の持つSNS等を通じたライダー向けの情報提供をスタートさせました。

また、府下のセルフ式ガソリンスタンドにおいて『二輪事故多発』と印刷した啓発ステッカーを給油



ノズルに貼付する等のタイムリーな広報啓発対策を推進し、あわせて通勤時間帯における交通指導取締りを強化いたしました。

そして、日照時間が短くなる10月以降、高齢者の歩行中・自転車乗用中の交通死亡事故が多発傾向に転じたことから、薄暮・早朝時間帯に焦点を当て、11月と12月のそれぞれ10日間に亘り交通監視活動を強化する特別対策を実施いたしました。

このほか、年間を通じた新たな取組といたしまして、「自転車左側通行徹底キャンペーン」による自転車対策、実際の通学路における実践型の交通安全教育を行う通学路対策、安全運転サポート車の普及啓発を盛り込んだ高齢運転者対策を推進しています。

大阪府警察といたしましては、本年も、交通事故のない社会を目指し、府民が安心して暮らせる「安全なまち大阪」の確立に向けて

- 関係機関・団体等と連携した交通安全教育・広報啓発活動
- 交通事故発生実態に即した交通指導取締り
- 安全で快適な交通環境づくり

等の交通安全諸対策を強力に推進してまいります。

府民一人ひとりが交通ルールを遵守し、交通マナーを習慣付けることが図られますよう、皆様方には、各種広報啓発活動をはじめとする交通安全諸活動に、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、曾根崎交通安全協会の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご多幸を祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

平成29年中、大阪府下の交通事故発生概況について

1 交通事故の概況

- 件数、死者数、負傷者数ともに減少しましたが、重傷者数は増加しました。
- 死者数は、全国で3,694人となり、大阪は都道府県別でワースト6位
- 歩行者の死者数が減少 49人 (対前年比-5人)
- 交差点における事故による死者数は同数 77人 (対前年比±0人)
- 夜間における死者数が増加 76人 (対前年比+1人)

2 過去との対比(交通白書の統計)

- 死者数の過去のピークは、昭和45年で16,765人であった。
- 自動車保有台数は、昭和45年当時、約161万台の登録があったが、昨年は約450万台の登録

大阪府内の交通事故

区分	年	平成29年	平成28年	前年対比	増減率
件数		35,926	37,920	-1,994	-5.3%
死者数		150	161	-11	-6.8%
負傷者数		43,476	45,460	-1,984	-10.8%
重傷者数		3,032	2,937	+95	+3.2%

曾根崎警察署管内の交通事故

区分	年	平成29年	平成28年	前年対比	増減率
件数		429	472	+43	-9.1%
死者数		1	1	±0	—
負傷者数		519	572	-53	-9.3%
重傷者数		24	43	-19	-44.2%

■ 平成29年 全国の交通死亡事故(ワースト10の都道府県)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
都道府県	愛知	埼玉	東京	兵庫	千葉	大阪	神奈川	北海道	茨城	福岡
死者数	200	177	164	161	154	150	149	148	143	139
前年比	-12	+26	+5	+9	-31	-11	+9	-10	-7	-4

曽根崎警察署管内で昨年発生した死亡事故

昨年、10月21日(土)早朝、曽根崎警察署管内で発生した交通死亡事故は、交通信号機が設置されている交差点で発生しました。

関係者は、78歳の男性が運転する車と72歳が運転する自転車が衝突する交通事故で「安全確認」が困難な道路事情はありませんでした。

交差点 目と目を合わせて 事故防止

交差点での交通事故を防ぐ秘訣…
それは、**アイコンタクト!**
お互いの目を見て、
相手が自分に気づいているか
確認しましょう!



「アイコンタクトで交通事故防止」は、「大阪府交通対策協議会」(会長松井知事)が交差点での交通死亡事故を防ぐため標語等を募集し、最優秀賞を受賞した作品です。

受賞されたのは、自動車教習所の教習指導員で、受賞者から「子供から大人まで、分かりやすく、5・7・5のリズムで覚えやすいように作りました。」とのコメントがあります。

大阪府警の統計によりますと、昨年1月から12月までの府内の死者は、150人。

この内、交差点発生した交通事故での死者は、77人(51.3%)交差点付近は、28人(18.7%)で死亡事故全体の7割を占めた。

道路交通法の改正案

携帯電話やスマートホン进行操作や注視しながら運転し、交通事故を起こす割合が増加する危険行為に対し、政府は、本年1月22日から招集される予定の通常国会に、厳罰化を図るための法案を提出する予定であることが分かった。

主な改正は、

○ 罰則の強化

携帯電話等进行操作しながら運転した場合

〔現行〕 5万円以下の罰金

〔改正〕 6月以下の懲役又は10万円以下の罰金

○ 携帯等しながら運転し交通の危険を生じさせた場合

〔現行〕 3月以下の懲役または5万円以下の罰金

〔改正〕 1年以下の懲役または30万円以下の罰金

※ 交通反則通告制度の対象から除外

